

市立味鋺保育園の直営存続を 緊急に申し入れ

2016年8月26日 日本共産党市議団 緊急申し入れ

名古屋市は現在111園ある市立保育園を78園まで削減・民間移管する計画です。今年度は4園の民間移管に向けた公募が行われました。このうち味鋺保育園（北区）は公募に応じた法人がゼロでした。市は再公募する方針ですが、公募要件が緩和される恐れがあります。日本共産党名古屋市議団は26日、河村たかし市長に、計画の中止を緊急に申し入れました。



右から柴田民雄、さいとう愛子、さはしあこ、岡田ゆき子各議員と佐藤良喜局長

味鋺保育園 公募ゼロ

申し入れで岡田ゆき子議員は、「保育は入園できるかどうかだけでなく、入園した後が大切。貧困対策、子どもの育ちの問題の観点が必要だ」と強調しました。味鋺保育園の保護者から寄せられている不安の声を紹介し、「再公募をして公募要件が変われば、保育所間で格差が生じ、現行の保育の質を維持してほしいという保護者の願いに背くことになる」と主張。応じた佐藤良喜・子ども青少年局長に、同園の再公募は行わず、公立保育園として存続させるよう強く求めました。

佐藤局長は、「応募ゼロの理由はわからないが、まさか応募がないとは思わなかった。保護者の声は聞く」としつつも、再公募は計画どおり実行すると述べるにとどまりました。

名古屋の保育の質を低下させるおそれ

当初3年だった法人要件を5年に厳しくした経緯があります。再公募にあたりこの条件を緩和するのは逆行です。岡田議員は「公募がゼロだった以上民間への移管は諦め、できれば公立のまま存続してほしいというのが保護者の声です」と重ねて求めました。

保護者の声

- ・まさか応募がゼロとは思いませんでした
- ・保育園がどうなるのか今後が心配
- ・公立のまま存続してほしい
- ・なぜゼロになったのか説明してほしい

現在の主な公募要件

- ・社会福祉法人であることと（営利法人ではダメ）
- ・名古屋市内で5年以上保育所などを運営していること